

## 民国連携による「松くい虫防除帯森林」の造成について

東北森林管理局 盛岡森林管理署 森林技術指導官 松尾 亨

### 1 課題を取り上げた背景

岩手県におけるマツ材線虫病被害は、昭和54年に県南部の一関市で発生以来約40年近くかけ中央部の盛岡市に北上しています。冷涼な気候と高標高の山地に囲まれていることから拡大スピードが遅れていましたが、近年の温暖化にともない、北上川沿いの丘陵地帯の森林で激害の発生が見られます。

このことから、従来からの監視強化による被害の早期発見と、伐倒燻蒸による対策では、被害の拡大阻止は出来ないのではとの危機感から、新たな対策として、被害先端地の北側にアカマツの空白地帯となる、防除帯森林の整備を行い、岩手県北部に大量に存する「南部アカマツ」資源の保全に取り組みました。



松くい虫激害の森林(紫波町)

### 2 取組の経過

- ① 媒介昆虫の生態から防除効果の高いエリアの選定と、林帯幅の確保のため民有林と連携しました。
- ② アカマツ施業群を天然更新により、樹種転換する施業を検討しました。
- ③ マツタケ産地であり森林所有者の合意形成が難しいため対策を検討しました。
- ④ アカマツ材の需要が低迷しており、販路の拡大に取り組みました。
- ⑤ 事業規模が大きく伐採、新植の事業経費が膨大なことから、低コスト化の森林づくり案を検討しました。

### 3 実行結果

- ① MB 指数によるマツノマダラカミキリ自然抑制域を積算し、標高500m以下の森林で、南北2km東西14kmの防除帯エリアを選定しました。
- ② アカマツ林に侵入している広葉樹のぼう芽力を活用した「多様な森林づくり」について森林計画を策定しました。
- ③ 県、町、森林所有者、森林総研東北支所、森林管理署の6者による合意で、全体構想を作成し森林整備推進協定を締結しました。
- ④ アカマツ材の利用拡大に向け、流通、販売、加工、建築等の関係者からなる「アカマツ利用促進連絡会議」を設置し販路を拡大しました。
- ⑤ 立木システム販売による契約方法で、地域材の安定供給と、一貫作業、低密度植栽による低コスト化を図りました。



協定エリア(岩手町)

### 4 考察

松くい虫防除を目的とした森林整備推進協定は全国的にも事例がなく、予防と駆除を組み合わせた防除帯の効果に地域の期待は大きいです。民国連携事業には、解決すべき課題も多くありましたが、日頃からの地域との信頼関係の構築と、研究機関の協力により科学的な視点で事業を進めています。また、事業費の節減のために取り入れた立木システム販売も、地域材の安定供給に繋がりプラス効果となっています。

今後は、低コスト造林、多様な森林への誘導など技術開発への取組と、アカマツ材の利用促進など産・学・官・民が連携し、地域の林業・木材産業による取組が、林業の成長産業化に繋がると期待しています。